

# 福祉って何だろう？

～東北福祉大学阿部裕一教授 特別寄稿～



現在、東北福祉大学総合福祉学部教授。1959（昭和34）年福島県生まれ。東北学院大学大学院経済学研究科博士課程後期課程満期退学。宮城県社会福祉協議会評議員、東北自治研修所講師。共訳書に『福祉国家の限界—普遍主義のディレンマ—』（中央法規出版）、共著書に『構造的転換期の社会保障—その理論と実際—』（中央法規出版）、『社会保障』（弘文堂）、『高齢者の生活保障』（青路社）などがある。

## はじめに「福祉」という言葉の氾濫

そもそも「福祉」とは何でしょう。こんにちの日本において、「福祉」という言葉を聞いたことがない人はほとんどいないでしょう。それほど私たちの社会に浸透していますし、言い換えれば氾濫しています。私たちの日常会話のなかにも「福祉」の話題が頻繁に登場しますし、選挙があれば党派を越えて、多くの候補者が「福祉」の充実を掲げています。

しかし、誰もが知っている単語ですが、いや誰もが知っている単語だからこそ、その意味や内容を深く考えたことがある人は少ないのではないのでしょうか。そこで、ここでは「福祉」とは何だろう」というテーマから、改めて「福祉」の意味やその内容等について考えてみたいと思います。

## 一般（慣用）的な理解は：

「福祉」という言葉が公式に登場したのは、1946（昭和21）

年制定の日本国憲法第25条といわれています。この条文には次のように記されています。

「1 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。2 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と。この日本国憲法から「（社会）福祉」という言葉が一般化されていったのです。

ところで、皆さんは「福祉」と聞くと直感的に何を思い浮かべますか。たぶん介護、高齢者、子ども、そして障がいをもった方々への支援などを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。つまり、「福祉」とは「社会的に弱い立場にある人々への支援」という理解です。このような理解が一般的な解釈だと思われま

す。国語辞典にも、「福祉」とは「公的扶助やサービスによる生活の安定、充足」（『広辞苑』岩波書店）と記述されています。ここに登場する公的扶助は「最低生活の

れるはずである」と。

## 実践としての「福祉」

少し抽象的な話になってしまいました。「福祉」の意味・考え方はここまでにして、今度は実践という側面から具体的に「福祉」を掘り下げて考えてみたいと思います。まず、次のような事例で考えてみましょう。

Aさんは、ボランティア活動のために高齢者の介護施設を訪ねました。そこでの活動のなかで、高齢者の方の車椅子を押すという支援を大変感謝されました。Aさんは大いにやりがいを感じ、その後も積極的にボランティア活動に参加しました。ある時、別の施設で車椅子を利用しての高齢者の方に同じような支援をしましたが喜ばれず、むしろ「おせっかいをするな」と叱られてしまいました。

このような事例を皆さんはどのように考えますか。前者の場合は、自分自身で車椅子を操作できなかったために、押しにくれた行為に感謝の意を表したと思われるし、後者の場合には、自ら操作できるにも拘わらずAさんが車椅子を押したことによって、自らの残っている能力が

保障を目的として、生活困窮を条件に国が国民に対して行う保護（同上）のことですから、結局、「社会的に弱い立場にある人々（ここでは生活に困窮している人々）への支援」と同じような意味をもっています。単に「福祉」ではなく、「社会福祉」となるとより一層このような意味に捉える人が多いと思いますし、「児童福祉」や「高齢者福祉」となると、もっと具体的にもなっています。

少し難しい言葉で表現すると、「（社会）福祉」は子ども、高齢や障がいなどで生活上何らかの支援や介助を必要とする人、経済的困窮者・ホームレスなどに對し、生活を安定・充足させるためのサービスを社会的に提供する

こと、あるいはそのための制度や設備を整備することをいうこととなります。したがって、「福祉」は一部の人々を対象とすることになるのです。言い換えると「福祉」は一部の人々のためにあるという解釈です。これを狭義の「福祉」と呼びます。

奪われる危機感から機嫌を害したのかも知れません。

いずれにしても、「車椅子を押す」という同じ行為であっても、人によって求めているものや必要とするものが違うことが理解されると思います。つまり、一人ひとり個性をもった人間に対して同じ方法で対応することは効果的ではありませんし、人間が人間に接する際に「このようにすれば良い」という絶対的な理論や方法は無いのです。自分本位の支援はしあわせの押し売りになる可能性もあります。

従来の狭義の「福祉」の領域においては、身体的、精神的、経済的、社会的にハンディキャップのある人々に対して、睡眠、食事、排泄などの基本的欲求を充足する面での援助を中心に行ってききました。しかし、今日では教育や社会参加、文化や娯楽の機会などを得ることも社会生活を営む上で重要なことです。また、基本的欲求や社会生活の基

## 語源的な意味としての理解は：

ところが、「福祉」をこのように理解すると次のようなことが生じます。「福祉」を学んだ学生が民間企業を就職先に希望したときです。就職面接の際に「なぜ『福祉』を学んで民間企業を希望したのか。学んできたこととやりたいことがズレているのではないか」などと面接官から質問されたという話をよく聞きます。「福祉」とは「社会的に弱い立場にある人々への支援」であり、一部の人々への支援である

と面接官が解釈していたのでしよう。しかし、「福祉」の考え方はこれだけなのでしようか。ここまででは一般（慣用）的な理解をみてきましたが、次に語源的な意味から考えてみましょう。まず、「福祉」という言葉を「福」と「祉」に分解して漢和辞典で調べてみます。「福」とは「さいわい。しあわせ。幸福」、「祉」は「さいわい。しあわせ。神からさ

ずかる幸福」と記載されています。えていくことが「福祉」の実践には求められています。この考えは、広義の「福祉」へと繋がります。

## おわりに—自分自身の「福祉」

ご理解いただけただけでしようか。さまざまなことを述べてきましたが、社会的に弱い立場にある人々への支援を含むにしても、「福祉」は一部の人々に限定したものではなく、私たち一人ひとりの生活・環境そのものであるといえます。また、『自己実現』できるよう支えていくことが「福祉」の実践ならば、最終的には自分自身の自己実現がテーマになるはず

です。つまり、「福祉」は与えられるものではなく、自分自身のテーマとして私たち一人ひとりが主体的に考え、生活のなかから作り上げていくものではないでしようか。もちろん、「福祉」とは何かに

ついての絶対的な解答はあり得ません。その意味では、さまざまな解釈があり得ることを理解した上で、自分なりの「福祉観」をもてばよいと思います。この拙文が皆さんの「福祉」を考える際の参考になれば幸いです。

【参考文献】武川正吾「福祉社会」（有斐閣アルマ）、正村公宏「福祉国家から福祉社会へ」（筑摩書房）など

「福祉みやぎ」は、全ページの下部隅に「SPコード」を入れています。これを専用の読み取り装置「スピーチオ」に通すと、紙面に印刷された活字の情報を音声で聞くことができます。高齢者や視覚障害者の方の情報手段として有効です。